

岐大通2014

2014 J.League Division2

F C 岐阜大好き通信 (岐大通)

8/10号

第26節 愛媛FC戦

編集発行：『岐大通』製作委員会

今号の製作担当：

ささたく&吉田鎔造

8/10 19:00 @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest : 愛媛FC 2013 J2 12勝11分19敗 勝ち点47:第17位

1970年創設の『松山SC』が前身。天皇杯本大会出場は『愛媛FCユース』の方が先で、東京ガス(現・FC東京)が準決勝まで進出した1997年の天皇杯では2回戦でその東京ガスを相手に延長戦にまでもつれこむ戦いをみせた。トップチームは2000年の地域決勝で1次ラウンドで敗退も当時のJFL拡充策に参加することで全国リーグへ参戦。2005年にJFLで優勝しJ2参戦。2007年の天皇杯では、直前に行われたアジア・チャンピオンズ・リーグ(ACL)を制した浦和に0-2で勝利、続く横浜FC戦も勝利してベスト8となる。クラブ公式マスコットの他に、「準公式マスコット」である『一平くん(カエル)』があり、その積極的な活動が有名(今年のワールドカップ・ブラジル大会での日本vsコートジボワールの会場にも現れ、FIFA公式サイトにその姿が掲載された)。最高位は2006年のJ2・9位。(吉田鎔造)

7/30のホーム・岡山戦を2-2に引き分けたFC岐阜。中3日の過密日程で、15戦無敗と好調な岡山相手に2点差を迫ったことは評価できるとも言えるが、一方ではホーム戦で2失点を許した守備面には未だ課題を残しているとも言えるだろう。しかし、続く8/3のアウェイ・長崎戦では相手に押されながらも#22 GK川口らの粘り強い守備で0失点に抑え、2-0で勝利することができた。守備陣も自信を深めたことだろう。また、真夏の過密日程3連戦を2勝1分で終えられた結果は非常に大きい。これで勝ち点を32に積み上げ、順位も14位に上昇した。目標としている最終順位の10位(現在は福岡)は勝ち点34、つまり勝ち点2差だし、7位(京都)も勝ち点3差だ。今節もFC岐阜が勝利すれば、一桁順位も夢ではない位置につけている。しかし、プレーオフ圏内の6位・千葉(勝ち点38)から18位・長崎(勝ち点29)までが勝ち点9差に入っているという、今季J2リーグの大混戦はそれほど変わっていない。つまり1つの勝ち負けで順位は上下に大きく変動する。そしてリーグはまだ残り17試合もある。これからも、1試合1試合を全力でたたかって、そして一喜一憂する(できれば喜びが続くことが望ましいが)シーズンが続くことだろう。

さて、今節の対戦相手は現在16位の愛媛FC。愛媛との通算対戦成績は1勝10分4敗、ホームでも1勝5分2敗と分が悪い。また何故か引き分けが多いのも特徴で、前回の対戦でも第5節・3/30にアウェイで0-0で引き分け、これで6試合連続ドローに終わっている。唯一勝利したのは2009年第27節(7/21)、2-1での勝利と5年前のことだが、当時のスタメンには#4田中、#17野垣内がいた。彼らの活躍で2勝目を挙げたいところだ。愛媛のトップスコアラーは6得点で#14堀米勇輝と#20河原和寿の2人、5得点で#18西田剛が続く。愛媛の全29得点中17点をこの3人で叩き出しているの、まずは彼らを自由にさせないことが岐阜の守備陣には求められるだろう。また愛媛は総失点が24(4位)と堅守のチームだ。一方の岐阜は得点力が35(4位)のチーム、この攻撃力で愛媛の守備を打ち破って欲しい。前節は#24難波が2得点、前々節は#9ナザリトが2得点を挙げて復調の兆しを見せている。チーム内得点王を競っている2選手の活躍には是非とも期待したいところだ。

今季ここまでのFC岐阜の成績は9勝5分11敗、勝ち点は32で得点35。昨年の最終成績が9勝10分23敗、勝ち点37で得点37だったことを考えれば、17試合を残して昨年の成績を(勝利数では)達成している計算になる。しかし、「今年のFC岐阜は違う」と周囲から思われるためには、ここから更にどれだけ勝ち星を積み上げられるかが重要だ。なにより、ホームでは6/1の京都戦以来2ヶ月以上もチームの勝利を見ていない。僕らはホーム長良川での勝利に飢えているのだ。本日は“SEINOサンクスマッチ”、先日の都市対抗野球で初優勝した西濃運輸応援部もエールを送ってくれる。彼ら以上の声援を僕らが選手に届けて、そして2ヶ月振りに勝利の万歳四唱で喜び合おうじゃないか。

(ささたく)

2014J2

■順位表 ■第25節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1	湘南	68p	+43	54	11	H●
2	松本	51p	+18	39	21	A●
3	磐田	47p	+15	43	28	H●
4	岡山	43p	+7	31	24	A● H△
5	北九州	41p	+2	27	25	H△
6	千葉	38p	+4	32	28	H△
7	京都	35p	+2	35	33	H○
8	大分	35p	-8	25	33	A●
9	山形	34p	+7	30	23	A●
10	福岡	34p	+1	33	32	H●
11	札幌	34p	+4	28	27	A●
12	水戸	32p	+3	27	24	A●
13	横浜FC	32p	+1	25	24	A○ H●
14	岐阜	32p	-1	35	36	---
15	栃木	32p	-3	29	32	H●
16	愛媛	31p	+5	29	24	A△
17	群馬	30p	-7	23	30	H○
18	長崎	29p	-1	26	27	H△ A○
19	熊本	27p	-12	25	37	A○
20	東京V	23p	-13	18	31	A○
21	讃岐	15p	-29	20	49	H○ A○
22	富山	9p	-35	13	48	H○

次回HomeGame

第29節 東京ヴェルディ戦

8/31(日) 18:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場



本庄工業株式会社

<http://www.honjo-woodream.com/>

岡田歯科医院

岐阜市加納新本町1-23

tel:058-273-8998

ALADDIN

何も無い店だけど...

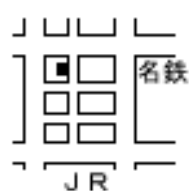
心の花が咲く...

何も無い店だけど...

心癒される...

忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)



「いらっしゃいませ」より「おかえりなさい」が似合うアットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は

JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。

休:月曜(定休日が変わりました!)

投稿募集!!

gidaidohri@hotmail.co.jp

【第24節】岐阜 2-2 岡山

●前半と後半でこんなにも……、いや、ナザが一点決める前と後でこれほど印象が変わるとは。高地の惜しいシュートはあったけど、ちっとも得点できるような雰囲気はなく、逆にあっさり2点取られた時はいったいどうなることかと。

この試合前まで4位につけている岡山は十何試合だか無敗という球団記録を更新中。その中にはアウェイ・カンコースタジアムでの岐阜戦も含まれていて、その時もこの試合同様早い時間に先制され主導権を握られてしまった。それでも、無敗だけれども連勝ではないというところがミソで、けっこう失点もしているのが岡山。前述のアウェイでの対戦時も後半に難波がゴールを決めている。それを考えれば、4位の相手であっても決して恐れることはない……、ハズなのだが。やっぱり、2点も先取されるとなかなか勝ち点3には結びつかないね。押谷のシュートを始め、キャプテンの再三のビッグ・セーブにも救われた。彼の活躍で得ることができた勝ち点は、いったいいくつあるんだろう？ただ、彼の見せ場が目立つのはいいことなのかどうかはわからないけどね（苦笑）。

2-2というスコアもあるけど、ゴール・ラインを越えたかどうかの微妙な判定あり、PK失敗、それもいくらバーに当たったからといってあんなに跳ね返らなくてもいいじゃん、という場面あり、その後のうっづんを晴らす同点劇あり、そして、まさかの一発レッドで退場ありと、実にスペクタクルな展開で初めて観戦だとか、たまの観戦だとかいう方には楽しんでいただけたんではないだろうか？あまりにいろんなことがありすぎて、こちらは終了後はバタバタでした。

同じ監督が5年目の岡山と違い、ウチにはまだまだ甘さがあるというか、特に若手のプレーには納得できないところもあるけれども、時折見せてくれる能力の片りんには心躍るモノがある。後半戦は始まったばかり。少ないチャンスを実実に生かして、ウナギ上りに成長していったほしいなあ。期待しています。あ、それから、次のPKの機会にもナザには臆せずチャレンジしてもらいたいですね。

それにしても、ホンットに岡山の上田康太ってメンドウな選手だな。（ぐん、）

【第25節】長崎 0-2 岐阜

●台風12号の影響で、ひどい豪雨と風が時折やってくる天候でのアウェイ。本当に試合を開催するのかわりも発表がなかったから不安だったけれど、開催されて良かった…もし中止になったら、そう気楽に来れる距離でもないからね、長崎は（苦笑）。まあ勝ったから良いけど。

さて、長崎のスタメンには#18佐藤光一と#44スティップ。こりゃ絶対に負けられない試合だな…と当然思ったのだけれど、試合開始から8分で5本のCKを与え、ほぼワンサイドゲームの状態が続いたのは（天候もあって）正直きつかった（苦笑）。まあ勝ったから良いけど。

岐阜の最初のチャンスは（たぶん）PK獲得時のFKだったかな？#24難波がゴールを決めてくれて、チームも僕らもひと息つけた感じだったけど、その後も押されながらも前半終了。後半はやや流れを取り戻した感じはあったけど、それでも優勢だったのは（残念ながら）長崎。でも、この試合は守備陣が本当に踏ん張ってくれた。何度も足を投げ出してピンチを救ってくれたし、ファーストディフェンダーとしてトップ下の#15ヘニキの存在も効いていた。何より#22GK川口能活の活躍が今節も光り、何度もピンチを救ってくれた。僕も「ここ数試合のキレは凄いな」って思ってたんだけど、中継で紹介されてた「川口は昨年ほとんど試合に出てなかったけれど、試合勘が戻ってきたみたいだ」ってコメント、同じようなことをラモス監督も思ってたみたいですね。やはり、くぐった修羅場の数、経験値は半端ないです、はい。

ロスタイムに難波が2点目を決めるまでは本当に苦しい試合だったけれど、それだけに勝利の喜びは大きかった。万歳四唱の後に始まる「難波劇場」も楽しかったし、帰り際に（ゴール裏の脇を通った）ラモス監督が僕らに感謝の言葉をかけてくれたのも嬉しかった。けれど、一番嬉しかったのは、今は長崎の#44をつけたスティップが、僕らの前に来てくれたことだった。僕らは口々に感謝とお別れの言葉を口にして、（岐阜の）コールとチャントで彼を送った。彼は僕らに握手した後、目頭を押さえながら何度も振り返り、手を振り、投げキッスをして、そして去っていった。本当に彼が僕ら岐阜サポを愛してくれていたことを感じたし、彼に僕らの気持ちを伝えられたことが嬉しかった。そして僕個人としては、自分の気持ちを整理できたかな、と思う。非常に厳しい日程と天候そして試合内容だったけれど、本当に「行って良かった」と思える長崎遠征だった。（ささたく）

●シャンプー持ってくればよかった。そしたら、頭洗ってスッキリ爽快になれたのに。

試合が予定通り開催されたのはいいんだけど、試合前にはピッチに水を撒くような状況だったのに、キックオフ前から降り出した雨は晴れ間がのぞいているにもかかわらず降り続け、途中にはシャワーか？と思うような時もあったりして、結局試合終了まで止むことはなかった。全身ズブ濡れになりながらの応援はいつ以来だったか。シャンプーの用意はしてなかったけど、2-0のクリーン・シートだったから気分スッキリ、とはならないかな？（苦笑）

キックオフから押し込まれる時間が続き、必死で耐え忍んでいたチームに活力を与えるPKを獲得してくれたのは、この日が初スタメンにしてJリーグデビューとなった岩崎陽平。闘志あふれるプレーが値千金のPK獲得となったが、その代償として無念の前半での交替。彼の本来の持ち味、その片りんを見せてくれる場面はなかったが、次の機会を心待ちにしている。ケガの具合に問題がなければ早いうちに再び彼のプレーを見ることが出来るはずだ。

試合を通しての流れとしては、長良川での試合、そして先月の天皇杯のように長崎の方が「自分たちのサッカー」を貫き通していたように見えた。聞くところによると、4月後半以来ホームでの勝利がないらしい。なかなか得点も決まらない。（以前どこかで聞いたような、いや、身に覚えがあるような……）それでも、姿勢がブレてないから、試合後の挨拶の時もスタンドから拍手が贈られるんだろうな（そういえば、試合後スティップがこちらのゴール裏まで挨拶に来てくれたらしい。帰りの電車の関係でその場面に立ち会うことが出来なかったのは返す返すも残念だが、きちんとお別れが出来たのはよかった。これからの活躍を願ってやまない）。

そんな展開の中で獲得したPKを難波がきっちり決めてくれた。確か「PKは苦手」と言っていたような気がしたが、この日は何の躊躇もなくボールを手にしてたんで苦手意識とやらはすっかり払しょくできたみたい。その一点を守って泥臭く戦い抜いてくれた中で終了間際にダメ押しの一点を決めてくれたのも難波だった。これで今季9点目となり、彼にとってはキャリア・ハイの得点。ここ数年は得点という結果が出ていなかっただけに今季の充実ぶりには彼も手応えを感じているのではないだろうか。ますます、ノッていって欲しいと思うし、それを期待している。もちろん、試合後のマイク・パフォーマンスならぬトラメガ・パフォーマンスもね。気がついたら、熊本～讃岐～長崎とアウェイ3連勝。とはいえ、そんな気がしないのはやっぱり長良川で勝ってないから。6月1日の京都戦以来だから約2ヶ月か。そろそろホームでのバンザイ四唱がやりたいので、愛媛戦はぜひともよろしくお願ひしますよ、選手の皆さん。もちろん、ボクも及ばずながらあらん限りの声を出します！（ぐん、）